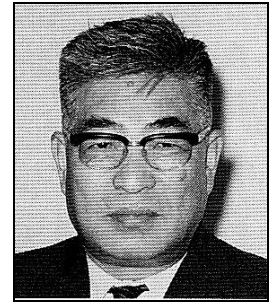


【 会員投稿 】 奥田文一さんを偲んで



1. 昭和34年4月、菱電機器(株)尾島工場の発足のため、名古屋製作所家電工場の技術部門の責任者として派遣され、小型家庭用電気器具の開発設計を担当され、当社発展の基礎を築かれた事をご承知の通りです。
特に現在の馬電の主体となっているエコ給湯機については、電気温水器の経験ある当社へ、中部電力より夜間の余剰電力を利用した温水器の開発依頼があり、落下貯湯式温水器を開発、全電力会社のルートでの販売で業界を席捲。続いて奥田さんの発案で使い勝手の良い、床置押し式温水器(現・深夜電力利用温水器の基本形)の開発、発売で深夜電力温水器のトップメーカーとなったことは、ご承知の通りです。また、温水器のみならず、胴体2分割クリーナー「風神」の開発など……。
奥田さんのお元気で活躍されて居られた時の事を思い返し、惜別の感一入であり、ご冥福をお祈り申し上げます。
＜ 祖父江 常雄 ＞
2. 奥田さんには「群馬菱の実会」の発足に大変ご尽力いただいたと聞いております。
創設から22年が経ち、いまや会員も350名を超えて「菱の実会だより」や各種の活動を通じて共に働いた仲間との交流や近況を知る場として期待されている会だと確信しています。
また、奥田さんは、私が入社した時の直属の部長であり、モーターの設計を担当することになったためその先生でもありました。大きな体に厳つい顔、最初は怖そうでもとても近寄りやすい方と思いましたが、はにかみ笑いをしながらとつとつと話されるのでほっとしたのを覚えております。
「菱の実会」発足以来総会と懇親会にはよく出席くださっていたようで、8年前私が菱の実会の幹事を引き受けてからは、時々熊谷駅までお迎えに行きました。群馬製作所時代や近況の話をするのがとても楽しみな様子でした。懇親会の乾杯の音頭をお願いすると「わしゃ話が苦手だから」と大きな体をすぼめるようにして笑顔でおっしゃりながら必ず引き受けてくださいました。
3年前「90歳になったら足腰が弱ったので来年からは総会にも出られなくなるな」とおっしゃって5年分の会費を納めて「出歩けなくなっても、競馬はやれるから」といつもの笑顔でおっしゃって帰られたのがついこのあいだのように思い出されます。きっとその後も楽しい日々を過ごされたことと信じつつご冥福をお祈り申し上げます。
＜ 長嶺 元 ＞

(今後、このような故人を偲んでの記事を載せていきたいと思っておりますので、ご投稿下さるようお願いいたします)

シリーズ・【 馬電の思い出 】

あの時代…みんな一生懸命でした。忘れてならないのは、あの時代、あの体験、あの苦労があって、今があるということ。「温故知新」時々過去を振り返り、今を見直すことも必要ではないでしょうか。シリーズで、馬電の過去を振り返ってみたいと思います。1回目は、馬電の一つの転換期です。

① 昭和45年～49年 … 「情報機器への挑戦」

昭和45年は、馬電にとって一つの転換期であり、難関期でした。

主力商品の温水器、クリーナーが市況の低迷に見舞われ、大胆な体質改善が実施されました。

鎌倉製作所と姫路製作所に合わせて58名の生産応援者を派遣、これがきっかけで鎌倉製作所の担当機種であった「磁気ディスク」の生産を開始しました。

そして昭和46年からは、「オフィスコンピュータMELCOM80シリーズ」の生産が開始されました。

昭和47年に電子機器製造課が発足して、「磁気ディスク」や「磁気ヘッド」の外販や、「ガソリンスタンド用POS」も手がけました。

一方、従来の家電品も、昭和47年に業界初の「電子ジャー炊飯器」を発売してヒット商品となり、続いて「電子レンジ」が静岡製作所から移管され、馬電の新しい柱に育っていきました。

この2つの機種の導入で、売上も急上昇に転じました。

しかし、昭和49年には、「石油危機」による不況が日本を襲い、馬電も延べ12日にわたる創立以来初の帰休に追い込まれました。

社員数は、昭和45年に1637人を数えましたが、これをピークに以降減少していきました。

————— この、昭和45年から49年の難関期に、所長としてカジをとったのが、奥田文一さんでした。

【 会員投稿 】 追想

—— 『文チャン』 こと奥田文一さんを偲んで —— 徳山 長

- ▶ 「文チャン」こと 奥田文一さん(元馬電所長)他界の報は「群馬菱の実会だより」によりもたらされた。90歳を越えての大往生と覚悟はしておれど、私にとって大先輩の他界は最大に悲しい。
「オーイ、長さん入室か！」 ・大きな体型 ・優しい微笑 ・そして趣味の競馬券をポケットに入れて、人間性豊かな会話、、、
▷▷ そんな「文チャン」に もう一度お会いしたい！
- ▶ 小型回転機技術の専門家「文チャン」こと 奥田文一氏は、モーター開発、量産そして家庭用商品の開発、量産を通じて技術革新を図り、多くの人材を育成した。
当時名電にあった家庭電気商品の事業展開を 馬電へ移設と拡大が図られ、「文チャン」は 技術移管の責任者として馬電へ転任、定年退職まで馬電マネジメント（第三代所長）と共に技術革新に注力された。「文チャン」の技術は三菱電機にとどまらず、業界で高く評価されている。
これらの成果は、ホーム機器(株)の花園工場や藤岡工場で見られる。
▷▷ 「文チャン」是非もう一度馬電へ寄りませんか！そして馬電の将来について語りませんか！
- ▶ 温水器の男「文チャン」こと 奥田文一氏は エコ給湯器の市場拡大を見ずして他界した。
深夜電力利用温水器の事業開発は、電力会社(株)殿の援助を得ながら、「文チャン」は リーダーシップを発揮した。この事業展開の成果は誰もが知るところであり、温水器の男と評された。
エコ給湯器の事業展開に当って・市場、顧客への教育・販売ルートの確保・新しい販売ルート
・新しいニーズに合った商品開発といった課題が残されている。
これらの課題の内容と実体を総括したい。
▷▷ 「文チャン」の温水器成功作戦を大切にしてください！
- ▶ 「文チャン」は「菱の実会」総会に必ず参加された。高齢のため欠席されるようになり、下名の病気もあって近年お会いしていない。
馬電ご視察の帰路、高崎線車中で「文チャン」と話合った。馬電の将来、そして競馬、、、大宮への時間は短かった。「文チャン」と別れる時、私は必ず再来を要望した。
▷▷ 「文チャン」はもう来ない！ だけど再度声をかける。馬電へ立ち寄って下さい！
▷▷ だけど「文チャン」はもう来ない！！

合掌

故「文チャン」こと奥田文一様

(平成 20 年春)

奥田さん有難うございました

高橋 正晨

群馬菱の実会だより2008年4月1日号にて奥田さんの訃報を知り、大変驚き、馬電の基礎を築かれた恩人を失った寂しさに涙が溢れました。

何も知らなかった私に、設計とは何かを教えて下さったのは奥田さんでした。三菱電機は会社が生き続けるために、何を開発すべきかと言うことでした。自由奔放な雰囲気の中で、目標設定、独創考案、現物検証などの具体的挑戦を行いながら、他社を凌駕する商品を創り出すことでした。

2000年に開催された「馬電設計OB60歳超の会」の際、熊谷駅より藪塚温泉までのマイクロバスの中で、奥田さんと親しくお話したのが最後となりました。

「お前に謝らなければならないことがある。ジャー炊飯器の発売の後、読売新聞社が取材に来た際、所長室に呼ばなかったことである」と謝られました。

また持論として、「お金がないのは首が無いのと同じだ」と言われたことがいまでも耳に残っております心から人を信じ、任せるといふ、心の大きい人物でした。

心からご冥福をお祈り申し上げる次第でございます。